

令和 8 年度 前期終業式 校長講話

前に本で読んだ蚤の話 皆さんにしたいと思います。蚤ってわかりますか？

小さな昆虫です。体長 1 ミリ程度ですが、30～40センチジャンプします。

その蚤をコップの中に入れて、透明な蓋をします。蚤は何度飛んでも蓋にぶつかって外に出られません。しばらくして、その蓋を外しても不思議なことに、蚤は外に出ないのだそうです。

この話を読んだとき、人間にも同じことが起きている気がしました。私もそうです。今まで挑戦してダメだったことはこの先もダメだと思ってしまうものです。障害物がなくなっているかもしれないし、自分自身が力を蓄えているかもしれないのに。

その飛ばなくなった蚤がもう一度飛ぶ方法が 1 つだけあるのだそうです。どんな方法だと思いますか？「外から新しい蚤を一匹コップの中に入れる」のだそうです。当然、その蚤は飛んで出ていきます。それを見た他の蚤たちは、自分自身が飛べることに気が付いて、次々に飛んでいくのだそうです。だから私は、集団の中で挑戦する人の存在はすごく大切だと思っています。その人の存在が出来ないと諦めている他の人達に勇気を与えるからです。

今年度青森東高校は生徒の挑戦を本気で応援しています。県の様々な企画に応募して、これからノルウェーに 3 名、シンガポールに 6 名、フランスに 1 名の生徒が研修に行きます。1 月に実施する学校独自のフィリピン研修には 20 名以上の生徒が参加します。様々なボランティアや、小中学校での学習支援に挑戦している生徒もいます。生徒会の 1 年生は弘前大学での大人のイベントに参加しました。堂々とした発表ぶりに文部科学省の職員が驚いていました。高い志望を掲げて必死で勉強している 3 年生も沢山います。皆自分の力を信じて挑戦している人たちです。学校全体に、挑戦してみよう。という空気が少しずつ醸成されてきたように思います。

そんな中でも、動けずにいる人たちも決して少なくありません。でも私はそれでもいいのだと思っています。それぞれの人にそれぞれの「時間」があります。今はじっくり力を蓄えて、高校を卒業した後に大きくジャンプする人だっています。それでいいのです。

周囲と比べるのではなく、自分の力を自分で信じてあげてください。焦らず、自分の「時」を待ってください。それまでは、周りで挑戦している人がいたら、心から応援してあげてください。

私達教員も気づかないうちに、皆さんたちの蓋にならないよう、生徒の力を信じていたいと思います。そして、我々自身も挑戦します。今朝の臨時職員会議で青森東高校は文部科学省の事業に手を上げることを決めました。負担は増えるかもしれないけれど、この学校を大きく動かし、授業の充実、生徒の活動の財政的支援のために挑戦します。もちろん厳しい審査があるので、採択されないかもしれませんが。それでも私たち教員も挑戦します。そのことを皆さんにお伝えして、前期終業式 の話とします。